

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	言語文化研究科言語社会専攻 ヨーロッパ・アメリカ講座教授
氏名 Name	岡田 新
専門分野 Academic Field	イギリス現代政治史

主たる研究テーマ Principal Research Subject	自由党の再生と衰退
<p>昨年度は、第 1 次大戦の戦時下で行われた補欠選挙の中でも、戦後の自由党の衰退、労働党の勃興を考察するうえで、もっとも重要な意味を持つと思われるマンチェスター郊外のサルフォード北の補欠選挙について、資料収集し分析して、「サルフォード北補欠選挙と自由党の衰退」という題名の論文にまとめた。（『英米研究』第 39 号所収）研究の過程で、明らかになったことは、まず、マンチェスター地域の選挙においても、第 1 次大戦前は、自由党と労働党が事実上、すみ分けることによって、共倒れを防ぎ、保守陣営に対抗していたことである。自由党と労働党の候補が争った例は、わずか一例しか存在しなかった。そしてサルフォード北選挙区においても、所謂リブ・ラブ派に属し、労働党からも出馬したことがある候補が、ずっと議席を占めていた。ところが 1917 年の補欠選挙に自由党の後継候補として立候補したのは、アスクイス首相やグレー外相と同窓のエリートであり、アスクイス内閣に行政官として仕えていた人物であった。彼は、後にロイド・ジョージについての評伝を執筆し、アスクイスを引きずり下ろした行為を激しく非難していた。選挙戦の中では、あからさまなロイド・ジョージの批判は、しなかったものの、ロイド・ジョージの政策の方針に対する熱心な支持者ではなかった。一方、もともと戦闘的な組合活動の活動家として有名だったテイレットは、ロイド・ジョージの総力戦を全面的に支持する好戦的な愛国主義を掲げ、従来の政党の枠を超え、幅広い支持を結集することに成功した。そしてこのテイレットの勝利は、この選挙区における自由党の基盤を根底から覆し、第 1 次大戦後、労働党と保守党が議席を争う選挙区へと変貌させたのであった。こうした研究結果は、戦時下の愛国主義的労働者候補が、戦前の自由党等労働党の連携に代わって、新たな政治的地平を切り開いたことを、改めて後付けた。こうした戦時下での、補欠選挙の結果を踏まえながら、1918 年の総選挙の分析に向けた準備を進める予定である。</p>	